



第2章

尹錫悦政権が向き合う中国

——強硬と対話、模索する立ち位置

日本経済新聞社 ソウル支局記者

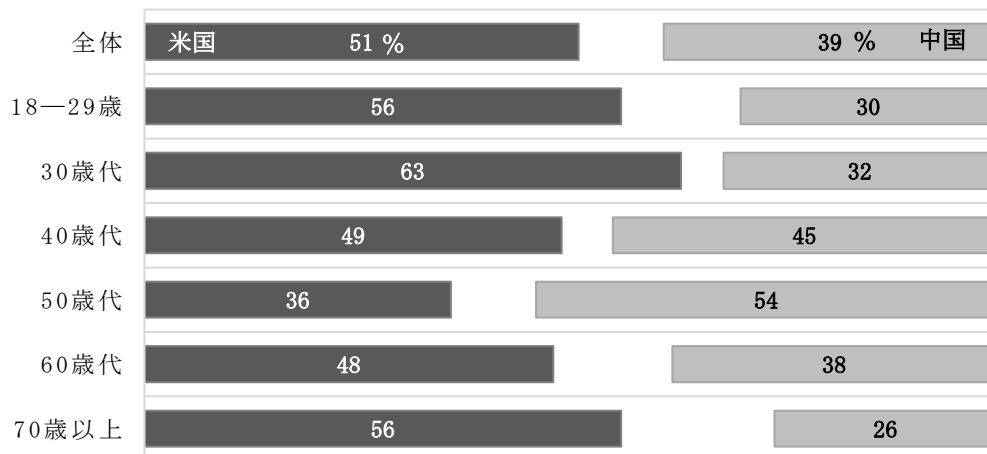
甲原 潤之介

【ポイント】

- 韓国の対中スタンスが変化している。尹錫悦（ユン・ソンニョル）政権は韓国政権として初めて「インド太平洋戦略」を策定し、自由や法の支配といった価値観を重視した外交を進める。「国家安保戦略」では中国に対し、国益に基づき断固として対応すると表明した。
- 尹政権の2年間をみると、中国とは距離を置きつつ米国と日本との結束を強める外交を展開してきたことがわかる。中国との経済協力を重視した歴代政権と異なり、中国に対して強硬と対話の姿勢を繰り返しながら、日米と共に中国に対峙していく姿勢を鮮明にする。
- 韓国国内の世論の変化が対中スタンスの変化を後押ししている。新型コロナウイルスの感染拡大、香港の問題などを経て、中国に好感を持たない割合は8割まで膨らむ。若年層を中心に中国より米国を重視する傾向が強まっている。



韓国経済にとって重要な周辺国に米国と中国を挙げた人の割合
(2023年6月)



資料：韓国ギャラップの世論調査をもとに作成